

第三者評価結果

事業所名：太陽の子長津田北保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・保育所保育指針や10の育ってほしい姿等を考慮し、自園の発達過程を考慮しながら全体の計画を編成している。</p> <p>・全体的な計画はベースを作成した段階で、年度末のスタッフ会議にて各クラスの発達過程の見直しや追記箇所の確認等行いながら細かく話しを詰めて最終調整し、園長が作成している。</p> <p>・翌年度の全体的な計画は、前年度の保育の状況や保護者アンケート、各クラス発達記録、スタッフアンケートなどから検討し作成につなげている。相対的な園評価は掲示しているので、その課題や問題点を考慮し、反映させた全体的な計画の策定となっている。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・保育室は空調・扇風機・床暖房、また加湿器・空気清浄機を稼働して季節ごとに快適な環境を保てるよう調整している。コロナ禍においては、窓を開放状態にし常に換気を行っている。</p> <p>・職員は環境整備の研修を受講したり、園内研修でも学び合う機会を持ち、子どもが主体的に遊べるコーナー作りや配置の工夫を行っている。絵本や玩具なども子どもの発達や季節などにも配慮し定期的な入替を行っている。絵本コーナーには畳を設置し、くつろいで過ごせるように配慮している。</p> <p>・午睡用の寝具はリースで定期的な交換したりメンテナンスをしてもらっている。衛生面を配慮して個別に名前を付けて同じものを使用するようにしている。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・昼礼、スタッフミーティングにおいて子どもの状況を把握し情報共有に努めており、園全体で子どもの状態に応じた保育を行うことができるようにしている。</p> <p>・乳児には欲求を汲み取り穏やかに代弁し受容し、幼児には安心して自分の思いを表現出来るように寄りそっている。子どもの行動やつぶやきを見逃さない様にする事で、一人ひとりの思いを受け止め理解するように心がけている。</p> <p>・本社のマルチリトメント研修をもとに園内研修を行い、職員にはマルチリトメントとは何なのか理解した上でどういう対応や環境が子どもの心身を大切に育ていけるのか考える機会を作っている。また園内でそういった場面が見られた時、同僚として意見が言える職員の環境づくりを目指している。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・5つの基本的な生活習慣は、子どもの育ちに合ったやり方で職員が配慮し行っている。基本的には年齢に沿って、時には職員がそっと介助する事も行いながら自分でやろうとする気持ちを育てると共に身につけられるように援助している。乳児では月齢差もあるため年齢にこだわらず、成長に見合った個別の援助を丁寧に行い、子どもの負担にならないように配慮している。</p> <p>・基本的な生活習慣の中で食事・睡眠・排泄でも同じように個人差が大きい為、乳児も幼児も無理なく子ども自身が意欲を持って行ったり気持ちよく行えることを大切にしている。年齢に応じて活動と休息のバランスを意識して保育を行っており、昼寝時間については年長児は就学にむけて年明けより時間を短くするなどの配慮をしている。</p> <p>・コロナ禍となってからは衛生面に配慮して手洗いの徹底や正しい手洗いのやり方を繰り返し伝えている。</p>	

A-1-(2)-④
【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

a

<コメント>

・天気が良い日は散歩や園庭で外気浴をしながら季節の自然や小さな生き物に触れ合えるように工夫して戸外遊びをしている。絵本に出てくる動植物をさがしたり、散歩先で見つけた自然物を園に戻って図鑑で調べたりなど、子どもの声から遊びを発展できるように、子どものつぶやきを見逃さないように援助している。
・散歩に出かけることで、顔なじみの近隣の人やお店の方に挨拶したり交通ルール学んだりできる機会にもなっており、敬老の日・勤労感謝の行事や植物のタネや苗の買い物などでも近隣の方々と触れ合うことができるように援助している。
・表現活動として自然物を使った制作、廃材遊び、劇遊びなど、子どもの興味を取り入れながら様々な体験ができるような環境づくりに努めている。子どもが主体的に遊びこめるような環境作りについて園内研修で討議したり、ミーティングでアイデアを出し合ったりして改良に取り組んでいる。

A-1-(2)-⑤
【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

・0歳児の保育室はほふく室として衛生面を考慮して、職員は別の靴下を履いて入室している。座位が出来るまではベビーベットやベビーラックを使用して、月齢の高い子どもたちと接触や衝突したりしないように配慮している。
・一人ひとりの生活リズムを大切に、睡眠・排泄・食事(授乳)等の生理的欲求を受け止めながら信頼関係を育み、時には甘えに応じ言葉をかけたり抱っこで応じるようにしている。鼻水を拭く時やおむつを替えるとき等には話しかけてから行う様にしている。
・身体機能の発達を助けるために介助しながら座位・はいはい・つかまり立ち・歩行など育ちに応じて体を動かしたり、運動マットなどを使って保育士と一緒に動いて遊んだり、探索活動が楽しめるよう安全に配慮しながら戸外や室内の環境整備をしている。
・腕、指先の機能の発達に沿ってひっぱたり、投げたり、入れたり、つまんだりして集中できるような手作り玩具を多く準備している。

A-1-(2)-⑥
【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

・生理的・依存的欲求を満たすことで安心できる保育士との関係づくりを育みながら、戸外遊びを中心に体を動かし体力をつけていけるようにしている。散歩先では職員が安全点検を行い、子ども達が探索遊びが十分に出来るような環境と安全面への配慮をしている。
・興味・関心が持てるように散歩バッグ等を製作して季節の自然物に触れ、拾って持ち帰れる様にするなどの工夫をしている。室内では自分の遊びたい物を選んで遊べるよう玩具の数を揃えたり、育ちに応じて遊びのコーナーを変えたりしている。
・子ども同士の関りが増える時期でもあり、自我の発達によりトラブルが起きた際には、直ぐに対応できるように子どもの側で見守り、仲良く遊べるように仲立ちしている。
・フリーの職員が保育に入ったり、登降園時に他の職員が対応したり、給食時に栄養士が見守ったりと全園で子どもたちに関わるように努めている。

A-1-(2)-⑦
【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

・幼児クラスは異年齢交流の機会を多く持っており、散歩やおやつ、室内遊びなどでの関りを通して年下児は、年上児を尊敬し憧れを抱くような感情をもつなど、お互いを尊重する気持ちが育つように援助している。
・3歳児から友達にはそれぞれの思いがある事を知らせていき、相手を思いやる事が出来るようにセカンドステップを保育に取り入れたり、こんな言葉はどう思うかと問いかけたりして、保育の中で繰り返し伝えている。
・クラス別の活動では年齢に沿ったルールのある集団遊びを取り入れたり、絵本の世界などから子どものつぶやきや発言によって展開するごっこ遊びや、運動遊びのドッジボール、長縄跳び、けん玉などをそれぞれ自分で目標を掲げて行うことができるように援助している。また、生活発表会、運動会などの行事では子どもの意見を多く取り入れるようにしており、興味を持って取り組み、達成感を味わうことができるように援助している。

【A9】 A-1-(2)-⑧
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

・現在は障がいをもつ子どもが在園しており、年間支援計画と個別成長記録を作成し、クラスの子ども達とも関わりをもてるように配慮している。車イス使用の為、クラスで同じように保育に参加する事に制限があるが、行事なども違った形になっても参加出来る様担当保育士は工夫している。
・保育室に上がるエレベーターや本児専用のおむつ替え台を準備して使用している。また給食の形態は食べやすいように個別対応している。
・療育センターに定期的に通所していて、センターではリハビリと摂食指導の日があり、担当保育士と栄養士が見学し保育の参考にすることができている。また入園時には、センターの職員が来園し直接話をする機会を持っている。

【A10】 A-1-(2)-⑨
それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

・出来る限り、クラスで個々に活動するようにしており、人数に応じて夕方は合同保育に少しずつ移行している。乳児は時間の経過で不安になる事も少なくないので、抱っこや保育士の膝に乗せるなどしてスキンシップをとり個別の対応に努めている。延長保育では補食や夕食の提供も行うことが出来る体制がある。
・水分補給を途中にいれながら、乳幼児の合同保育になる時間帯には、玩具など乳児の誤飲になるものは避け安全に配慮しながら、玩具の他に絵本や机上遊びなど落ち着いて遊べる玩具を幾つか用意しながらも、子どもが自分で遊びたい物を選べるようにしている。
・引継ぎは昼礼で行い、共有ノート、登降園ボードによって共有し番番職員が確実に保護者に伝えられるように取り組んでいる。

【A11】 A-1-(2)-⑩
小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。

b

<コメント>

・全体の計画・年間カリキュラム・アプローチカリキュラム、また月案には小学校との連携・継続の項目があるため、年間の計画から月案に記入している。
・近隣の公立保育園が中心となって近隣園との年長児交流を計画し同じ小学校へ通う子ども同士と一緒に遊べる機会を作っている。コロナ禍の為、昨年度は中止となり今年度はお手紙交換へ変更となっている。
・保護者に向けてはクラスだよりの中で、小学校の先生からの声や必要な生活習慣などについて掲載し就学に向けて見通しが持てるように配慮している。
・年度末に近隣の小学校職員と入学について話す機会があり、入学時に出来てほしい生活習慣として、立ったまま靴を履く、給食の配膳の経験などを保育に取り入れるようにしている。指導要録をもとに進学先の小学校と連携して話が出来た。

A-1-(3) 健康管理

第三者評価結果

【A12】 A-1-(3)-①
子どもの健康管理を適切に行っている。

a

<コメント>

・看護師の配置はないが、本部看護師の指導の下、保育職員が保健業務・感染症対策それぞれのマニュアルに従い、受け入れ時から健康観察を行っており一人ひとりの一日の様子を確認している。変化があれば園長主任に報告があり、昼礼での共有報告や、また共有ノートや登降園チェック表にも記入され職員内で情報共有できるようにしている。
・発熱やいつもと違う様子があれば保護者に電話連絡を行い、入園のしおりにも記載している状態になったり、必要な時には迎えをお願いしている。早い迎えが必要ない時にはお迎えの際の様子を詳細に伝えている。また感染症発生時には、掲示し保護者にも周知している。
・健康指導として、手洗い、うがい、鼻かみなど年齢に応じて担任が分かりやすく伝えている。幼児クラスでは、寒い、暑い、痛いなど自分の体調や不調を言葉で伝えることが出来るように援助している。
・SIDSについては入園説明会で保護者に説明を行っていたり、園便りや保健だよりなどでも折に触れて掲載している。

【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a
--	---

<コメント>

・自治体の指示により、内科健診と歯科健診は年二回行い、個人ファイルにその記録を残している。保護者には健診ごとにその結果を知らせると共に健康の大切さや虫歯を作らない為になど、保健だよりや園便りなどに掲載して伝えている。幼児は園委託医より、歯科健診の後に歯の大切さや虫歯にならない為の歯の磨き方などの話しやレクチャーをしてもらう機会がある。
・昨年来のコロナ禍のため、絵本や紙芝居等でコロナウイルスや予防についてなどの知識を得られるように取り組んでおり、しっかり予防すれば必要以上に怖がる必要もないことも伝えている。

【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
---	---

<コメント>

・アレルギー疾患については本社のマニュアルに沿って対応をしている。職員全体でアレルギー児に関するビデオを視聴したり、園内研修でもアレルギーの怖さを学び、常に危機感を持って対応することができるように取り組んでいる。
・食物アレルギー児は栄養士とも面談を行い、給食・おやつに対応策を構築し、除去食対応で全職員に周知している。提供時には食札とトレーを見ながら声に出して確認し、三重のチェックを経てクラスへ運んでおり、クラスでも声に出しアレルギー児対応食という事を他の職員にも周知するようにしている。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a

<コメント>

・栄養士が中心となり、年齢別に年間食育計画を立てている。行事食や絵本の料理、世界の料理、日本の郷土料理の献立を提供、野菜を育てたり、野菜に触れたり、調理活動なども取り入れ、子どもが食を通じて様々な体験ができるように援助している。
・園庭の畑での栽培や、バケツ稲を育て収穫から脱穀、洗米、炊飯までを行いおにぎり作りをしたり、乳児は野菜に触れて感触や色・形を楽しんだりしている。また、柑橘類を何種類か輪切りにして、汁を飲んで見た目は似ているのに味に色々な物がある事を知るなど、子どもが興味を持って楽しく体験できるような食育に取り組んでいる。
・絵本やごっこ遊びから、パン屋さんをやったり招待状を書いて他クラスにお客さんとしてきてもらったりなどのあそびの発展も見られている。
・食育活動の様子はコドモンで配信し、給食だよりでも掲載して保護者に伝えている。

【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
--	---

<コメント>

・保育園ではさまざまな食材を提供しており、入園児には食材チェックを行っている。また、授乳や離乳食に関しても栄養士や担任が面談を行い、成長に合わせて離乳食を進めていったり、家庭で進めてもらったりしている。食材もマニュアルがあるが、咀嚼や嚥下の個々の育ちに合った形状にもらい、安全に進められるようにしている。
・給食のすすみが良くない場合には無理強いしない様、一口でも食べてみようかと声をかけたり、先に別のお皿に少し取り分けておいたり、幼児なら成長と共に自分で減らして欲しいことを告げられるよう、声をかけている。
・月に一度給食会議を開き、担任よりその月の献立の進み具合や食の傾向を聞いて話合っている。また、保育士側より食の提案も出たりしている。栄養士は食べている子どもの様子を見に行き、子ども達から感想を聞いている。季節の食材や世界や日本各地の珍しい料理も経験できるように援助している。

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・乳児では園の連絡帳を使用し、排泄・睡眠・食事・投薬などを記入してきてもらい、幼児は定型のノートを使用して登園時に確認をしている。毎日の保育内容を乳児は連絡帳に、幼児は掲示して確認してもらい情報共有している。その他に全学年でクラス単位でブログやドキュメンテーションを掲示したり、月末にはクラス便りで保育の様子を保護者に知らせている。クラス便りにはやったことだけでなく、子ども達にブームの絵本や、歌っている歌、指先を使う遊びなど、発育に伴う遊びや家庭でも行ってほしい育ちに関する提案なども掲載している。 ・コロナ禍となり、現況は制限があるものの、行事などもコロナ対策をとりながら出来るだけ開催している。個人面談やクラス懇談会などはZoomを使ったオンラインで行っている。 ・子どもの様子がいつもと違ったり、保護者が不安定になった際は個別に面談を提案するなどの配慮をしている。 	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談は希望者のみ実施しているが保護者からの相談があれば、いつでも対応可能であり面談の時間を設けている。また、保育以外に食事などでも気になる姿のある子どもに対しては、担任より保護者に声をかけて都合の良い日程を知らせてもらい、面談を行うこともある。 ・個々の事情がある為、他者の耳に入らない様声かけや、目につかない様面談する場所にも配慮している。また、相談内容に応じて園長が同席するなどの対応も行っている。面談を行った内容は個人ファイルに記載している。 	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待と思われる事案は発生していないが、登園時の受け入れの際や、保育園で着替える際に子どもの健康観察と共に不審な傷やアザの確認は行っており、日頃より早期発見・早期対応に努めている。 ・マニュアル設置以外に、園内研修でもマルトリートメントについて毎年職員は学んでおり、何が虐待なのかを見極められる様に取り組んでいる。身体的なもの以外にも、精神的なものや、性的なもの、ネグレクトなどは分かり辛いことが多いので、子どもの様子を常に見守り、いつもと違う時は子どもの発言から伺ったり、職員全員で情報共有して見守っていき、虐待が疑われる場合、もしくは虐待に繋がるのではないかとこの時は速やかに役所や関係機関と連絡がとれるようにする体制としている。 ・子どもだけでなく保護者に対しても、いつもと様子が違う際には、声をかけ寄りそったり話を聞いたりするように努めている。 	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが年間の目標を設定し、中間、年度末に園長と面談を行っており、意識の向上につながるように取り組んでいる。 ・行事・日誌・カリキュラムは活動に対して評価し反省を行っており、それを踏まえて次の計画に反映できるようにしている。行事は毎年担当者が変わることが多いため、写真なども取り入れ詳細に描き残すことで翌年度は反省していた部分に関して、参考となり充実したものが出来ていることがうかがえる。 ・毎月のカリキュラムは主任と話し合いながら作成することで、担任のカリキュラムに対する思いが反映されたものとなっている。 	